



# 2024年度 園だより 11月

## きたおおじ保育園



大人の口癖が子どもにうつる。よくある事ですが、気付いた時は少し恥ずかしい。自分では気付いていない口癖。あーそういえば言ってるかも!? 恥ずかしいですね。あんまり「それ保育園の誰が言ってるの?」って子どもに聞かないでください(笑)

<わかったよ> 

うつって嬉しい口癖だってありますよ。「すき〜!」とか「一緒やなあ」とかね。最近もひとつ嬉しい口癖に気付きました。それは「わかったよ」です。こちらが何かを言うたび「わかったよ」って言葉を返す仲間がいます。この「わかったよ」これはきたおおじ保育園が心掛けている言葉のひとつなのです。

<対等な存在として> 


子育てや保育の中で“子どもの気持ちを尊重する”という言葉が最近よく耳にするようになりました。子どもを大人以下の存在と見てしまうことが、虐待や不適切保育となり、近年数多くのニュースになったことも理由の一つかもしれません。しかし、子どもを下に見ないよう心掛けた結果、子どもを上に見てしまってもダメなのです。

子育てに一生懸命なお父さん、お母さんが、望ましくない状態になってしまうのが子どもの「いいなり」になってしまう関わりです。「子どもの気持ちを尊重したいから、子どもが要求したことはできるだけ叶えなければいけない」そのようにとらえてしまい、子どもの言いなりになる事を積み重ね、後に大変な子育てになってしまう。このようなケースを耳にする事が多くなってきたように感じています。



<子どもの主体としての思いや願いを受け止めること>

保育所における保育の基本的な考えが記されている“保育所保育指針”というものがあり、私たち保育士はそこに従い保育を行なう義務があります。保育所保育指針には「子どもの主体としての思いや願いを受け止めること」を保育士がしなくてはならない保育だと書かれています。主体としての思いや願いとはどういうことでしょうか? 主体性とは「自分の意志・判断で行動しようとする態度」です。モヤモヤしますね。

<わかった、わかった。わかったよ♡> 

では、ここでいう“受け止める”とは、どういう事でしょうか? 子どもの思い通りにさせてあげることでしょうか? いいえ違います。それだと“受け止める”ではなく“受け入れる”になってしまいます。保育所保育指針の中に“受け入れる”といった文言は出てきません。受け入れるの意味は「相手を同意して賛成すること」であり、一方、受け止めるの意味は「相手の気持ちや意見を理解すること」なのです。

私たちがしなければならないのは、受け入れるのではなく、受け止めることです。考えや意見、価値観が対立したとしても、違いを認めながら、目的に沿ってお互いの意見をすり合わせ、落としどころを探っていく事なのです。



そこで、きたおおじ保育園が大切にしている言葉「わかったよ」。たとえ思い通りにさせてあげられなくても、しっかりこの言葉を返してあげたいと思います。お家でもぜひ心掛けてみてください。「わかった、わかった。わかったよ♡」

主任保育士 糸井恵太





# きたおおじアルバム

